

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
奈良の自然と災害を知って子供をまもる ～防災教育入門～		全教員	6H	講義
日程	定員	講師名(所属・職名等)		
平成29年8月18日(金)	50人	古田 壮宏(奈良教育大学・准教授) 和田 穰隆(奈良教育大学・教授) 高田 大介(奈良県教育委員会保健体育課・指導主事) 大内 卓久(奈良県総務部知事公室防災統括室・主幹)		
会場				
奈良教育大学				
<b>【講習の概要】</b>				
2011年の東日本震災以降、防災教育の重要性はあらためて認識され、取り組みのいっそうの促進が求められています。奈良県には多くの活断層が存在し、奈良市内も例外ではありません。また、近年では年間降雨量増加に伴い、県の南部地域を中心において土砂災害は頻発しており、深層崩壊現場の多さは全国有数であります。奈良県の子どもたちやその家族を守るために、奈良県で起こる可能性の高い災害について山間部や都市における災害に関する知識を深めるとともに、学校における防災教育推進プランの紹介や災害が起こったことを想定した思考トレーニングならびに防災の基礎知識について講義を行います。				
<b>【小テーマ①】 災害時にどのように行動すべきか？(自分と児童生徒の現状把握)</b>			1.5H	(担当講師:古田 壮宏)
講習形態	ワークショップ形式			
講習内容	災害前から災害時、災害後の避難生活、復旧・復興までを通して、自身にとってまたは児童生徒にとってどの場面でのようなものが必要かを時間軸を意識して確認するためのワークショップを行う。このような時間に沿った防災対策について、皆さん自身で考え、意見交換することで、今後の防災教育を実践する上での基礎となる「自分と児童生徒の現状」を把握する。また、その上で、これからできる防災対策と防災教育について議論する。			
到達目標・確認指標	(1) 防災についての自身の現状を把握する。 (2) 災害時の時間軸を意識した対策・教育を検討できる。			
キーワード	現状把握, 時間軸, 防災対策と防災教育			
<b>【小テーマ②】 紀伊半島はどんな”つくり”なのか？(その地形・地質と成り立ち)</b>			1.5H	(担当講師:和田 穰隆)
講習形態	講義形式			
講習内容	奈良県域を中心とした紀伊半島周辺の地質と地形の成り立ち、活断層との関係について解説します。また、活火山の存在しない近畿における火山噴火の影響についても言及します。			
到達目標・確認指標	(1) 紀伊半島域、とくに奈良県域を中心とした地質・地形の特徴、活断層分布の特徴を併せて理解する。 (2) それらの特徴がどのような過程で成立してきたかプレートテクトニクスに関連させて説明できる。			
キーワード	プレート・テクトニクス、西南日本外帯、西南日本内帯、活断層、近畿三角地帯、凝灰岩			
<b>【小テーマ③】 防災をどう教えるか？(奈良県学校地震防災教育推進プラン)</b>			1.5H	(担当講師:高田 大介)
講習形態	講義形式			
講習内容	防災協働社会の担い手として必要な資質や能力の育成を目指した防災教育の体系化が必要とされている。本県では、災害発生時の被害を軽減させるとともに、子どもたちの防災意識を高めるため、発達段階に応じた防災教育が展開されるよう「奈良県学校地震防災教育推進プラン」を作成し、災害に自立的に対応できる子どもの育成を目指している。本講義では、学校(園)における防災教育の展開例などを示しつつ、学校園における防災教育の機会および指導内容等についての理解を深めることを目的とします。			
到達目標・確認指標	(1) 日頃から学校が何をすべきかを危機管理の観点から理解する。 (2) 学校教育を通してどのようにして子どもたちの防災力を高めていくかの道筋を理解する。			
キーワード	理科、社会、生活、保健体育、体育(保健)、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間			
<b>【小テーマ④】 災害のイメージ・トレーニングをしてみよう！(DIGによる思考トレーニング)</b>			1.5H	(担当講師:大内 卓久)
講習形態	思考トレーニングおよび講義形式			
講習内容	災害図上訓練(Disaster Imagination Game, DIG)により、ゲーム感覚を取り入れながら、大きな地図にグループで災害リスクや防災資源を書き込むことにより、地域の災害に対する脆弱性に気づき、防災資源を活用した対応力の育成を目的とします。また、災害による被害を減らすための基礎知識を養うため、自助・共助・公助を中心とした災害対策の取り組みの基本に関する講義を行います。			
到達目標・確認指標	(1) 自分が住んでいる地域の災害リスクや防災資源を理解し、災害対応力を身につけるための思考トレーニングを行う。 (2) 災害対策の基礎知識を養い、減災のための自助、共助、公助の基本を理解する。			
キーワード	災害図上訓練、地域の災害脆弱性、災害対策の基礎知識、自助・共助・公助			
試験方法	各講習の最後に10分程度の筆記試験を行う。			
成績評価の方法・基準等	4つの筆記試験(小テーマ①②③④)をもとに成績評価する(25点+25点+25点+25点=100点満点)。総合点で60点以上を合格とする。			